

空き家棟数経過

R3.3.31 現在

【 空き家棟数 】

地区	H27	H28	H29	R2	R2空き家割合	H29調査からの増加数	H29調査からの増加率
鶴岡（1～6学区）	1,229	1,387	1,474	1,407	39.3%	-67	-4.5%
鶴岡（郊外地）	771	886	933	1,013	28.3%	80	8.6%
小計	2,000	2,273	2,407	2,420	67.6%	13	0.5%
藤 島	173	213	247	262	7.3%	15	6.1%
羽 黒	88	97	113	129	3.6%	16	14.2%
櫛 引	98	106	112	125	3.5%	13	11.6%
朝 日	83	83	82	164	4.6%	82	100.0%
温 海	364	399	441	482	13.5%	41	9.3%
合計	2,806	3,171	3,402	3,582	100.0%	180	5.3%

※ H30～R1は、空き家実態調査未実施のため数値なし。

※ 集計地区誤りによりH29空き家棟数を一部修正。


【 R2新規追加空き家 老朽危険度判定数 】

	A	B	C	D	未判定	合計
R2新規追加空き家	97	410	407	29	2	945
割合	10.3%	43.4%	43.1%	3.1%	0.2%	100.0%

【 年度別 老朽危険度判定数 】

		A	B	C	D	未判定	合計
H27	棟数	150	914	1,592	122	28	2,806
	割合	5.3%	32.6%	56.7%	4.3%	1.0%	100.0%
H28	棟数	154	1,151	1,691	144	31	3,171
	割合	4.9%	36.3%	53.3%	4.5%	1.0%	100.0%
H29	棟数	146	1,319	1,746	162	29	3,402
	割合	4.3%	38.8%	51.3%	4.8%	0.9%	100.0%
R2	棟数	150	1,277	1,961	184	10	3,582
	割合	4.2%	35.7%	54.7%	5.1%	0.3%	100.0%

老朽危険度

低  高	A	修繕の必要がほとんどなく、利用促進可能な空き家
	B	多少の修繕は必要だが、再利用可能な空き家
	C	大規模な修繕が必要で再利用困難である、適正管理が必要な空き家
	D	倒壊の危険性があり、近隣への影響を考慮する必要がある危険空き家